

二月

昭和十三年二月分

陣中誌

第一百八師團第四野戦病院

0817

二月一日
晴

(天) 晴
气温 午前六時 -4° 午後二時 4° 午後十時 20°

〔物資買入〕又患者護送を石家社ニ出張中ナリト太田主計
並見智士官等午後四時異常ナク歸隊ス

〔本日入院患者〕十名急住布枕膜炎一急住氣管文交二急
性筋炎一挫骨沖至痛一痔核一花柳病ニ未定ニ名ニテ
急隊復歸三名死亡一名アリ、死亡八昨日入院セル後頭部貫
通銃創患者ナリ、現在患者數百名トナリ各部共多
忙病室ノ狹隘ヲ来セリ。

兵伊藤見智士官以下二十三名石家社ヨリ歸隊ス

日々命令 四部隊日々命令次如シ
(二月一日午後二時於順徳)
第百八師團第四野戰病院本部

〔明日〕衛生材料受領ノ為空車輛二藥劑部ヨリ下士官一名
兵一名ヲ準備シ午後一時迄軍醫部ニ至リ分配ヲ受ス

(三) 明日衛生材料受領ノ為空車輛ニ。豫備兵一〇名ヲ
午前十時迄準備シ安達主計任長ノ指示ヲ受クシ
(三) 明日ノ日直、工藤准尉、柴野任長、佐藤(辨)上等兵

加藤一等兵

(四)

軍醫少尉

内藤貞勝

見習士官

皆川武大

衛生任長

森谷豊次郎

全

能澤八之助

全

吉田義五郎

衛生一等兵

遠藤策一

全

伊藤作治

衛生一等兵

須田亀三郎

全

安達義勝

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
榎木澤清藏	高橋辰藏	石川常治	西田藤吉	小坂清三郎	鈴木仁作	伊藤作次郎	前田兵八	藤谷伊三治	加藤友三郎	上野正一郎	川代永藏	櫻庭源太郎	...

輜重兵特勢等兵

右患者護送ノ為明日二月二日石家莊ニ去張ヲ命ケ
四本日ノ現員並馬数左ノ如シ

侍従一六、卜士官二五、兵一九九
計 二四〇
馬数(二頭入版)
計 七四

二月二日
順原

(水) 雪

氣温

午前六時

午後二時

午後十時

三寒ニ入り寒氣傾ニ發シ果セル哉午後ニ至リテ降雪
始メタリ

二本日收容患者二名急住友廣炎前腹ヘルニア各一名
ナリ尚患者三十名内藤少尉皆川見習士官護送ヲ
担任シ石家莊野戰後備病院第十九班ニ後送ス
現在患者数七十二名ナリ

鈴木一等兵

二

見習士官

大谷脩 二

衛生准尉

工藤 廣

衛生佐長

木村正 雄

全

川村伊三郎

衛生上等兵

佐々木甚悦

全

石垣典之助

全

佐藤辨次郎

補助衛生一等兵

元村武 四

全

後藤市之助

全

佐々木昌太郎

全

寺崎保 晴

全	菅野力三
全	向中野克己
全	倉成正治
全	田川清
全	小野熊太郎
全	齊藤政治郎
全	佐々木運二郎
全	石黒勲太郎
全	高見安治
全	正浦篤藏
全	伊藤鶴治

右明二月三日患者護送ノ為石家莊ニ出張ヲ命ズ
 本日本日ノ現員並馬數左ノ如シ

二月五日
 煥 德

(木) 曇後晴

氣温 午前六時 午後二時 午後十時
如 如 如

續雪三十寒氣極テ厚シ午後晴天トシ

一本日入院患者六名倍核性副單九矣一内痔核一急性胃
 炎二急性中耳炎一未定一名ニテ午後大谷見習士官、工
 藤准尉、患者ヲ護送ヲ担当シ三十名石家莊野戰豫備
 病院ニ後送ス現在患者數四十八名ナリ

日々命令

二部隊日々命令次ノ如シ(二月三日午後三時在煥德)
(第一師團第四野戰病院本部)

二月四日午前九時空車輛一二豫備兵十二名ヲ病院前ニ
 準備シ安達主計任長ノ指示ヲ受ケル

二月四日直、伊藤見習士官、左司任長、渡辺上等兵

奈良崎一等兵

(三)

見習士官

鈴木春太

衛生任長

柴野徳太郎

全

伊藤今作

衛生上等兵

佐藤傳

全

高瀬易五郎

全

石井成三

衛生二等兵

目下善次郎

全

榎本正三郎

全

丸島實

全

村元金次郎

全

松岡良太

補助衛生二等兵

遠藤忠作

全

小菅善左門

0823

二月四日
順徳

(金) 晴

氣温

午前六時

午後二時

午後十時

右明四日患者護送ノ為石家荘ニ出張ラ命ス
其本日ノ現員並馬数左ノ如シ

将校一二 下士官二〇 兵一六六

計一九四

馬数

計七五

全 全 全 全 全 全 全

伊藤一郎

佐々木勝治

田中一雄

磯島孝太郎

西澤清藏

石川徳太郎

何部市十郎

一本日入院四名倍膜炎、鼓膜内陷症、肛門周圍膿瘍、慢性淋
 毒症尿管道炎、各一名ニテ尚存隊後歸二名アリ午前鈴木見
 習士官患者復送テ担任シテ十名石家存隊備病院ニ後送ス
 現在患者數二十九名ナリ

六内藤少尉以下二十四名石家存隊ヨリ異常ナク歸隊ス

日々命令云都隊日々命令次ノ如シ
二月四日午後二時在順徳
 軍官八郎因第四師團司令部に於て

(一)明日ノ日直、高久見習士官、山内伍長、成田上等兵

岸一等兵

(二) 見習士官 高松 功

衛生伍長 高野 幸藏

令 東海林市郎

衛生上等兵 木次村谷八百治

衛生一等兵 土岐忠夫

全	全	全	全	全	全	輻重特務一等兵	全	全	全	全	全	全
加藤政太郎	伊藤鶴治	小笠原鳩惣治	千葉七郎	伊藤東一	石井吉松	峯田留吉	高松百松	佐々木久松	太田秀次	熊谷勇藏	木村金太郎	台賢太郎

二月五日
順 康

令 廣瀬主計

右朋五日患者護送ノ為石家莊ニ出張ヲ命ス

四本日ノ現員並ニ馬數左ノ如シ

將校 一三、下士官 二一、兵 一六三 計 一九七

馬數 七五

(五) 晴

氣温 午前六時 午後二時 午後十時

一近ク行動開始ノ為九日病院ヲ閉鎖スベキ内命ヲ受ク

二右ニ備フル為午前高松見習士官患者護送ヲ担任シ重

密三名ヲ除キ残ル全員二十一名石家莊野戦後備病院ニ後

送セリ尚石隊復歸六名アリ然ルニ午後二至リテ更ニ

十名急住氣管支炎ニ昇去血咽頭炎肺沖至衰弱症

三、尚去十二月二十五日第二野戦病院ヨリ當病院ニ配属
セラレタル齒科治療部ハ本日ヲ以テ閉鎖ス

開設以來治療齒數實二千六百九十六本ニ及ビ成績極メテ
良好ニシテ一般ヲ裨益スル處甚大ナリ、

全部主任、安東伍長以下全員ノ勞ヲ多トス、

四、午後第十六師團軍醫部附林中佐挨拶ノ為来訪セリ、

五、大谷見習士官以下二十二名本日石炭林ヲ異常ナク歸隊ス、

日々命令

六、部隊日々命令次ノ如シ(二月五日午後二時三十分於原野)
第一師團第四野戦病院本所

(一) 第四野戦病院ハ逐次患者ヲ後送シ二月九日病院ヲ閉鎖

シ現在地ニ在テ原所屬ニ後歸スベシ

(二) 明日ノ日直 屋代中尉 菅野伍長 菊池上等兵

清野上等兵

七、本日ノ現員並ニ馬數左ノ如シ

二月六日
報

橋校一四、下士官二、兵一六三、計一九八
馬數 七五

(月) 晴

氣温

午前六時

午後三時

午後十時

乘ル十日再び行動ヲ開始スルニ付午後二時ヨリ隊長室
ニ分隊長以上集合シ残置荷物及行動諸準備
ニ關シ打合會議ヲ行フ

二、本日收容患者二十一名花柳病六、中耳炎三、氣管支
炎二、痔核二、脚氣二、胸膜炎、肺炎挫傷關節炎、疝門、疝
困、膿瘍虫樣突起炎各一名ニテ是隊復歸後送患者

日々命令

四部隊日々命令次ノ如シ(二月十日午後四時三十分在横濱)

(一)師團ハ先主カヲ以テ邯鄲附近ニ前進シ爾後ハ進軍ヲ準備

備セントス

(二)本隊ハ第三梯團ニ入り二月十日順徳ヲ去發先テ邯鄲附近ニ

宿營セントス

(三)各部又第二小隊ハ二月八日中ニ去發準備ヲ完了スヘシ

(四)明日ノ日直、志田少尉、吉田政一伍長、鈴木上等兵、高橋上等兵、

五)本日ノ現負並馬数左ノ如シ

將校一五、卜士官二三、兵二八一、計二一九

馬数(二頭入数) 計七四

二月七日

順徳

(月)晴

氣温 午前六時

一師團軍醫部之負内山大尉第十六師團軍醫部之負ト共ニ
未訪病院ノ引継ニ関シ打合ヲナス

二本日收容患者五十名アリ、急性氣管炎八、花柳病七、肺
炎四、挫傷四、胸膜炎三、扁桃腺炎二、病瘡二、粘膜炎二
神圣痛二、痔核二、未定四、虫様突起炎中耳炎、外傷后
胎痕、蓄膿症、大腸炎、咽頭炎、血、脚氣、ヘルペス、切創各
一名ニシテ、原隊復歸後送患者ナシ、現在敷入十三名トナル、
近ク行動開始準備ノ為各隊ヨリ後送患者激増シ病室
ノ狭隘ヲ感スルニ至レリ、

三、高松見習士官以下二十一名本日異常ナク歸隊ス、

日々命令
四、部隊日々命令次ノ如シ、
(前七日午後二時三十分松原志
彦少尉、師團軍醫部敷院本部)

(一)明日ノ日直、黒田少尉、川村伊佐長、石垣上等兵、野尾上等兵

(二)衛生任長、熊澤八之助、上等兵、遠藤藤次郎

右、順徳野戦倉庫ニ残置セル荷物ノ監視ヲ命ズ

衛生准尉 北村健左右

見習士官 皆川武文

衛生伍長 高橋九一

全 吉田政義

衛生伍長 卯野政忠

衛生上等兵 渡邊勇

公 齊藤吉彌

衛生一等兵 式石克郎

補助衛生等兵 下斗米忠治

全 石小健次郎

全 龍澤一郎

全 渡邊徳太郎

右明後九日患者後送ノ為石家莊ニ去張ヲ命ス

輕重兵特務一等兵 倉田 正

今 佐藤 三治

今 小林 幸平

左入殿馬受領ノ為明八日石家莊ニ去張ヲ命ズ

五本日ノ現員並ニ馬數左ノ如シ

將校二六、卜士官二五、共一九九 計二四〇

馬數 七四

晴(天)

二月八日 順 德

二午前中第十六師團第一野戰病院附軍醫福田大尉中系
中尉來訪病院引継ノ件ニ関シ詳細ナル打合ヲナス

二院内外各部ハ除置以荷物ノ梱包ニ終日多忙ヲ極ム

聯隊本部ニ連絡ヲナシム

四本日入院更ニ十九名アリ、急性氣管支炎三、性別ニ、胸

推カリエスノ疑ニ、未定四、流行性感冒、胸氣慢性濕疹

筋レウマチ、慢性胃炎、虫媒突起炎、蛔虫症、鼠疫線

炎各一名ニシテ復歸者ナシ、現在一〇二名トス

五本日部隊配屬通譯阿本和四郎解職ス

六部隊日々命令次ノ如シ(二月八日午後三時三十分在東條)
(先右中系第一野戰病院本部)

一)通譯 阿本和四郎 依願解職ス

二)明九日午前九時半迄車輛四〇ヲ定位置ニ準備シ皆川任長ノ指

揮ヲ受クシ

三)明日ノ日直 内藤少尉 高野任長 高瀬上等兵

國部上等兵

七)本日ノ現員並ニ馬數左ノ如シ

日々命令

二月九日
水 (晴)

順徳
戦病院
野

将校一六、下士官二五、兵一九六、計、二三七
馬数 七四

一本日師團八部第二白と前進ス

二午前中車輜少隊ハ既番荷物ヲ驛前野戦倉庫ニ運搬シ之ニ

能澤衛生主任長以下二名ノ監視ヲ付セリ

五病院用設床四十九日收容新患ヲ在院患者現在百五名アリ

内一名ハ治癒愈後復歸一名(肛門周圍潰瘍)ハ才五名並司令部

勤務ノ関係上順徳驛前ニ患患者療養所ヲ送ル

尚十二名出様突起炎五、肺炎二、氣管炎二、感冒、中耳炎、膀胱

結石、淋疾、未定、各一名ハ比較的重病ナルモノ及近ク退院見込ニ

ノニシテ順徳第二十六師團第一野戦病院ニ引継ヲナシ殘九一名伊後

閉鎖ス

旧臘二十五日より本日迄軍設期間四十九日收容患者總數三百十六名ナリ

四、補助衛生兵丸川義雄(中耳炎)全佐藤権右(門花柳病)本日順徳野戦病院ニ入院ス

五、午後第十六師團軍醫部長及第一野戦病院長安達少佐挨拶ノ為来訪セシ

六、部隊日々命令次ノ如シ(二月九日午後二時在順徳野戦病院本部)

(一)本日順徳野戦病院ヲ閉鎖ス

(二)師團ハ邯鄲附近ニ兵カラ集結シ爾後ノ進撃ヲ準備ス

(三)本隊ハ明日ヨリ第三梯團ニ入り邯鄲ニ向ヒ前進セシム

依テ明日十日前九時三十分院庭ニ集合スヘシ

(四)行軍序列左ノ如シ

二月十日

木 (晴)

歩兵第百十七聯隊第一大隊本初馬辰福重第一第二第三
中隊野島第三、第五、第四ノ順序

五、

主計少尉 大田和五郎

見習士官 鈴木春太

衛生任長 塚本朝太郎

右設營要員トシテ明日十時五分迄順徳南端附近ニ
至リ粕谷縣隊副官ノ指示ヲ受ケル。

六明日ノ日晝、工藤准尉、遠藤任長、木次谷上等兵、如友一等兵
七本日ノ現員並ニ馬数左ノ如シ。

將校一三、卜士二一、兵一八 計二一六

馬数 七四

日々命令

此自天氣晴レテ行軍ニ應レキ天候ニ共滞在一ヶ月半後、行軍トテ會員ノ疲勞去發覺、既ニ著レキモノアリ。

九家鋪東北畑地ニ於テ大休止、晝食午後一時半更ニ行ヲ起シ、旭

々々大道ヲ黃塵ニマシレテ、沙河務普通店洛連店等ノ諸部落ヲ通過シ午後七時半河北鋪ニ到差全地ニ宿營セリ。

二部隊日々命令次ノ如シ(二月十日午後八時於河北鋪一神谷中隊東部)

(一) 本隊ハ本日河北鋪ニ宿營ス

(二) 敵收ニ関シテハ新報ヲ得ス

(三) 師團ハ依然邯鄲ノ主力ヲ集結中ナリ

(四) 本隊ハ特ニ宿營地ノ西北方ノ警戒ニ任スヘシ

(五) 給養ハ行李糶練ニヨリ

(六) 本隊ハ明土日邯鄲北側地区ニ向ヒ前進セシトス前分爲高野場ニ集ムヘシ

(七) 明土日紀元節ニ付キ去發ニ先立テ遠探式ヲ奉行ス

以行軍序列左ノ如シ

歩兵第三之聯隊第一大隊本部馬廠 輕重第二第三中隊

野砲三四ノ順序

此發營者八明士日午前七時五分臨洛園南端ニ至リ渡辺少尉ノ指揮

ヲ受クヘシ

同日並、池田見習士官、川村元一佐長、石井上等兵、鈴木一等兵

三、記事

本日第十六師團長中島今朝五閣下順徳ニ入場セリ之付城内各戸

毎二日章旗並ニ五色旗揚揚セリ城内平和ノ氣漂ヘリ。

四本日ノ視算員並ニ馬數左ノ如シ

將校一三、下士官二一、兵一八二 計二一六

馬數

七四

0838

逸之自王居ヲ梓ノ聖壽萬歲ヲ三唱ス

二午前八時半宿營地ニ發、邯鄲ノ白ノ前進途中往來スル

自動車ノ黃塵ニ悩マカレテ臨洛関ニ至リ宿營ノ諸部ヲ落テ

通返五午界河鎮ニテ大休止盡食ス、午後一時半再ビ發

邯鄲ノ北ニ名馬十餘架ヲ左側ニ見テ午後四時邯鄲

北側地ニ至リ蘇控鎮ニ到着今地ニ宿營ス

日々命令書 邯鄲日々命令次ノ如シ (二月十一日午後八時於蘇控鎮)

(一) 本隊ハ本日蘇控鎮ニ宿營ス

(二) 給養ハ行李糧秣ニヨリ

(三) 警急ニ際スルハ本部前ニ集合シ且直士官ノ指揮ヲ受クヘシ

(四) 本隊ハ明日現在地ニ於テ人馬ノ休養諸般ノ整備ヲ行フヘシ

(五) 明日午前十時糧秣受領ノ爲空車輛一二ヲ備テ四名ヲ

馬繫場ニ差出シ太田主計ノ指揮ヲ受クヘシ

(六)明日ノ日直

大谷見智士官、伊藤(令)伍長、佐々木上等兵、奈良崎一等兵

四、記事

本日記元節三付清酒ノ加給品アリ、

將校一六、下士官二四、兵一八九、計二二九、

馬數

七四、

二月十二日

邯鄲縣
蘇曹鎮

日々命令

土(晴)

一、愈々明十三日山西ニ向ヒ行動軍始スルニ付本日人馬ノ休養ニ努

メ諸般ノ整備ヲ實施ス

二、部隊日命令次ノ如シ(二月十二日午後四時三十分於蘇曹鎮)

(一)敵情ニ関シ新報ヲ得ズ

(二)明十三日右側支隊ハ味方ノ先遣支隊ハ猛虎村ニ師團ノ主力

二月十五日
河南州
武安縣

前何村一孟仔村一戸村鎮一康二城道ヲ康二城道ニ向ヒ前
進セントス 依テ午前七時三十分馬繋場ニ集合スヘシ

(四) 行軍序列左ノ如シ

本部 馬廠 輜重 第三中隊 野戰重砲 旅團 第五中隊

第四野戰砲隊 輜重 第三中隊ノ順序

(五) 明日ノ日並 高久見習士官 吉田(儀) 伍長 伊藤作上等兵

岸一等兵

三、本日ノ現員並馬數左ノ如シ

將校一六、卜士官二四、兵一八九 計二二九

馬數

七四

午前七時半蘇曹鎮ニ發ル鄆道ヲ北ニ向ヒ城壁ヲ西側ニ迂
回シテ驛裏ノ廣場ニ至リ此地ニテ小休止午前九時半途ヲ西方

庫二城

丘陵地帯ニ採リ邯鄲飛行場ヲ左側ニ見折柵柵訓練中ナ
ル我精銳銃砲隊ノ妙技ニ感歎シマシキ午半時河到着全
地ニ於テ大休止晝食ヲナス午後一時半更ニ行軍河北河南西
省界ヲ過リテ午後四時庫二城ニ到着今地ニ宿營ス

日々命令

二部隊日々命令次ノ如シ二月十日午後三時三十分於庫二城
一 敵状況ニ関シテ新報ヲ得ズ

二 本隊八本日庫二城ニ宿營ス

三 本夜ノ休養ハ行李整理ニヨル

四 本隊八日十日師團ノ進路ヲ修行シ本日ノ行軍序列ヲ以テ

武安ニ詳細偵道ヲ先ニ詳細偵ニ向ヒ前進セリトス

依テ午前八時半十分馬繁場ニ集會ス

五 行軍間嚴戒ヲ嚴ニスルト共ニ井ノ水ノ使用ニ就テハ嚴ニ注意ス

六 明日ノ日誌 北村准尉 野村伍長 斎藤上等兵

將校一六、士官二四、兵一八九、計二二九

馬數 七四

二月十四日

河南省
武安縣
徘徊鎮

月 (晴)

午前八時半庫二城出發軍余ニシテ東朱坊河原ニ到達
今地ニ於テ約二時間休止更ニ武安縣盆地ノ地ニ於テ大休止
晝食ヲナス

正午武安出發本日ノ目的地名徘徊鎮ニ向ヒ前進ス

途中ノ道路ニ平陽トシテ起伏甚ダシク且土岩燥並スル

隘路極メテ多ク爲ニ全身汗塵ノ煙幕ニ悩マレ其ノ黃土ニマ

レル顔貌ハ宛ラ泥人形ノ如ク此ノ在ノ人トモ見エズト白石ヨリ途

ハ礫岩露出シ悪路多ク爲ニ車輛極テ難行ス

日々命令

山上巴水鎮ニ於テ日没午後七時半目的地徘徊鎮ニ到
看全地ニ宿營ス

部隊日々命令次ノ如シ(二月十四日午後八時三十分
神谷部隊本部)

(一) 本隊ハ本日徘徊鎮ニ露營ス

(二) 冷養ハ行李糧秣ニヨル

(三) 師團ノ主力ハ明日十五日涉縣ニ向ヒ前進ス

(四) 本隊ハ明日五日師團主力ニ控行シ猛虎村一涉縣道ヲ先ツ

ト左ニ向ヒ前進セントス依テ午前八時馬繫場ニ集合スヘシ

(五) 行軍序列左ノ如シ

輜重本部 馬廠 輜重第二中隊 第四野病松岡輜重

(六) 行軍間ニ警戒ハ特ニ嚴ニスヘシ

(七) 警戒ニ際シテ本部ニ集合シ日誌官ノ指揮ヲ受クヘシ

(八) 明日八日直 伊藤見智士官 木村伍長 荒生上等兵

二月十五日
河南省沙縣
東新寨

將校一六、下士官二四、兵一八九 計二二九

馬數 七四

火（晴）

曇天朝霧煙雨ノ裡ヲ午前八時半律細鎮ニ發

南汝河ノ支流河原道ヲ行軍スルト里余ニテ顧義ニ到着全

地ニ於テ糧秣受領ノ為大休止ニ時間晝食午後一時全地ニ發此ノ

頃ヨリ空次第ニ霽レテ春光ハ淺レ去ヅ途ハ猛虎村ヨリ愈々山狹

ニ入り鳴々鋪迄ハ九十九折ナル登急坂ニテ路面亦凸凹不平ナル

砂利道ナレバ車輛ノ振動轉音甚シク人馬ノ疲勞甚ク極ニ達ス

鳴々鋪ヨリ比較的坦々ト坂トナル此白部隊ハト左ニ白ヲ答ナリ

シモ途中部落偏店西井店ハ何レモ火災ヲ起シ遭害甚ク難ナリ

ミナズ此地一帯特ニ抗日氣分旺盛ニシテ前衛部隊ハ數時

間蘇敵態甚ハ安ク多クレカバ止ムナク午後八時東新寨ニ到リ嚴
重ナル敵軍戒理ニ念地ニ於テ露宿セリ

日日命令

二部隊日々命令次ノ如シ 第四 (二月十五日午後九時於東新寨)

(一) 本隊ハ本夜東新寨ニ露宿ス

(二) 飧養ハ行李糧秣ニヨル

(三) 明日ノ行動ニ案シテハ進ヲ指示ス

(四) 明日ノ日直、皆川見習士官、東海林伍長、佐後辨上等兵

野尻上等兵

(五) 警急ニ際シテハ本部前ニ集合シ日直士官ノ指揮ヲ受ク

二部隊日々命令 第二回 (二月五日午後十一時三十分於東新寨)

(一) 敵状ニ関シテハ新報ヲ得ガレモ東陽関東方ニ敵ノ既設陣地

アルモノ如シ 師團ハ明後十七日拂曉迄ノ敵陣地ヲ攻撃スル目

的ヲ以テ明十六日涉縣西方地區ニ兵力ヲ集結ス

二月十六日
河南省涉縣
南 出

(三) 行軍序列左ノ如シ

輜重本部馬廠、輜重第二中隊、第四野戰病院、野重輜重
ノ順序

(四) 本日ノ現負重ニ馬數左ノ如シ

將校一六、下士官二四、兵一八九、計二二九

馬數

七四

水 (晴)

一天ハ晴レタレ共早朝ヨリ風吹キ荒ビ黃塵萬丈ノ中ヲ午前九
時半東新寨ニ至ル。山岩峭壁トシテ屏立スル急坂溢路ヲ
前進ニ里余ニシテ西井庄ニ到着。此地ニ柱ヲ糧秣受領ヲ待
ツ間大休止ヲナシ晝食ス。此ノ日ト左ニ宿營スル筈ナリシモ、命
令變更トナリテ更ニ前進三里涉縣ヲ過キテ午後五時半

清漳河ノ傍涉縣ノ東方約一里ナル高台南崗ニ到リ此地

ニ宿營セリ。

日々命令

二部隊日々命令次ノ如シ(一)前十六日午後七時三十分(南崗)
神谷部隊ヲ部

(一)師團ハ先遣隊ノ兵カラ増加シ東陽團東方ノ陣地ニ對シ

攻撃ヲ準備中ナリ。

(二)本隊ハ本夜南崗ニ露宿ス

(三)給養ハ行李糧秣ニ依ル其ハ補充ニ関シテハ明十七日朝高橋主

計大尉ノ指示ヲ受クヘシ、

(四)本隊ハ主トシテ宿營地西方ノ警戒ニ任ズベシ

馬繫場ニハ有力ナル歩哨ヲ配置シ各隊ト共ニ連絡シ嚴ニ

警戒スヘシ。

(五)警戒集合ノ場合ハ本部ニ集合シ日班士官ノ指揮ヲ受ク

ハシ

三部隊日々命令次ノ如シ
(二月十七日午後九時五分)
北南雲津谷部は東部)

一敵状ニ察シテ八新報ヲ得ズ師退ハ明十七日拂曉ヨリ先遣

隊ヲ以テ東陽軍東方敵陣地攻撃ヲ宿手ス

二本隊八明十七日師退ノ行動ニ供ヘ号進セントス依テハ午正

五發準備ヲ完了シ後命ヲ待テシ

三(二)明十七日午前八時空車輜四市備兵三名馬車馬場ニ準備シ

木田主計ノ指揮ヲ受テシ

四本日ノ現負馬数左ノ如シ

将校一六、卜士官二四、兵一八九、計二二九

馬数 七四

二月十七日 木(晴)

南 雲 二令曉師退ノ前北東陽軍東方地区ニ敵陣地ヲ攻撃ス

日々命令

公方(四)に於て砲撃段より本隊八年前中人馬ノ休養ニ努メテ
午後去奔謀(南)多完了レ后命令ヲ待程ニ公地帯在ノ中ナル

二部亦自々命令次ノ如シ(四) (二月十七日午後二時於南) (神谷部亦亦)

(一)東陽軍東方ノ敵ハ退却中ノモノ如シ

(二)本隊ハ何時ニテ去奔得ル如ク懸勢ニ於テ後命令ヲ待ツベシ

三)部隊員命令次ノ如シ(二) (二月十七日午後二時於南) (神谷部亦亦)

(一)東陽軍東方ノ敵ハ黎城方面ニ退却中ナリ

先遣隊至右側支隊ハ黎城東方地也ニ敵ヲ追撃ス

師團ハ明報抄書去者黎城ニ至リ前進スル若

(二)本隊ハ本夜現在地ニ宿營ス

(三)給養ハ行李糧秣ニ見其ノ補充ハ兵站物重第ニ本隊ヲ安ム

(四)宿营地ニ於テハ整軍成及整軍集合ニ定シテハ其日ニ令ジ

(五)本隊ハ明々自其親中依傍擇リ入り物為疎少ノ進路ヲ澄

リレ隊ノ補給ニ向テ進セリス成テ本夜九時ニ於テ其令ス

兵站輜重本部、輜重第一中隊、第四野病、兵站輜重
第三中隊ノ順序

(七)行軍間警戒ヲ嚴ニスヘシ

(八)設営者(太田主計、鈴木見智士官、塚本伍長、清野上等兵

八云平、聯隊長ノ住居ニシテ兵站輜重副官山科少尉ノ指示ヲ

受ケシ

(九)明日ノ日晝屋代中尉、伊藤金伍長、松田上等兵、加藤二等兵

四、記事、本日第三野病院ノ半部ハ命ニ依リ直ニ宿管地ニ移

向、宿管地ニ向テ第一野病ノ患者ヲ引継ケリ

五、本日ノ現員至ニ馬數左ノ如シ

將校二六、卜士官二四、兵一八九、計二二九

馬數

七四

0850

二月十八日
山三有
停河鋪

全(晴)

一、本日具銅中佐ノ指揮ト入り物居野原ノ後方ヲ進行シ午前九時半馬繁場ヲ出奔ス清漳河ノ礮道ヲ過ギテ涉縣ニ到リ合地西側ノ河畔ニテ休憩四十分ノヨリ途ハ次第ニ急坂隘路トナリテ行軍向ノ音塵名伏スヘカラス橋樹嶺河原ニ於テ大休止晝食午後一時更ニ山道ヲ路ヲ西進スルニ二里余ニテハ堂鋪ニ到ル
合地ニ於テ支那兵規程ノ死屍累々タルヲ見激戦ノ跡ヲ憶ベリ
之ヨリ途ハ石敷ノ急坂トナリ車輻一進一退折衝迫リタル夕間ニ雜行衛生兵ノ後援ヲ得テ漸ク東陽関ノ雜関ヲ突破シ午後十一時半目的地タル停河鋪ニ到着合地ニ西路管セリ

日々命令

二、部隊日々命令次ノ如シ(二月十八日午後十一時三十分於停河鋪)

(一)本隊ハ本日起停河鋪ニ露管ス

(二)給界ハ携帶中ハ糧乙ヲ使用スヘシ

0851

師團本部八明十九日黎明城を棄て五里鋪を白土前進す

四師團輜重八明十九日師團直後を徹す鎮を白土前進す

五師團八明十九日先遣輜重隊長古甲佐の指揮下に入り路安を

白土前進せんとす

依り午前七時四十五分を發準備を完了し馬撃場を集合す

六明日並志田少尉左司伍長菊池上等兵鈴木一等兵

四本日ノ現員五五馬数左ノ如シ

将校一六、卜士官二四、兵一八九 計二二九

馬数

七四

五、記事、此日白土營鋪ヨリ宿營地ニ至ル路傍所々至山觀望ノ
死死散在シ東陽園ノ激戦ヲ物語レリ

二月十九日

土、晴

0852

路安三白子
夜行軍
宿地國
(長城縣)

一、本日ヨリ先遣韜重古田中佐ノ指揮ト入ル

午前八時停河鋪去發行軍五里余ニテ黎城ニ達シ休憩更ニ

前進二里余趙店ニ西側濁漳河畔ニテ休會止晝食ヲ喫ス

午後一時半合地赴祭途八洞平村ヲ過ル急坂トナリ人馬皆ニ大

難行茶料神頭村馮村ノ三嶺ヲ越テ午後七時路安拜縣入

口ナル微子鎮ニ到着ス之ヨリ途ハ路安ニ到ル間山塵ニ浴フ坦々タル

在綿道路ナリ此ノ夜本隊ハ古田中佐ノ指揮ト入ル可ク黃塵ヲ

浴ビテ潞城南至鎮ヲ過ヤテ路安ニ白ニ夜行軍ス

日々命令
二部隊日々命令次ノ如シ(二月十九日午後二時於濁漳河畔)

一、明日ノ自茲 黒田少尉 高野佐長 石垣上等兵 奈良崎一等兵

三、本日ノ現負並ニ馬數左ノ如シ

將校一六 卜士官二四 兵一八九 計二二九

馬數 (一頭斃死)

七三

0853

潞安北関
(長治縣屬)

一 部隊日々命令次ノ如シ第一回(二月二十日午前時於景園左村)

一 本隊ハ現在地ニ於テ露營ス

二 槍巻ハ行李糧秣ニヨル

三 明日ノ白晝、内後少尉山内伍長 佐義(偽)上等兵、岸一軍

二十三里半ノ夜行軍ニ疲勞困憊セル本隊ハ午前一時潞安ヲ北

方ニ巨ル竹ニ斬ナル景家左畑地ニ到達全地ニ於テ前進大休止ヲ

ナス、時ニ時潞安城ハ總攻撃ヲ開始セリ野戰重砲並ニ機關銃

等ノ段々砲聲四圍ニ響シテ其壯烈ナル伏景蓋シ筆ノ舌ノ及バ

所ニテラカリキ馬繫索場ニ銃丸飛来シ危險ヲ感セリ

午前八時半漸ク砲聲止ミ官米地部隊ハ日去度ク潞安城

ヲ占據セリ我等ハ午後一時半景家左去發潞安北関ニ至リテ

全地ニ宿營セリ

日々命令
三 部隊日々命令左ノ如シ第二回(二月二十日午後十時於潞安北関)

(神谷部隊本部)

記事

(一) 本隊ハ本日潞安北関ニ宿營セントス
 (二) 食糧ハ行李糧秣ニヨルヘシ
 (三) 明日廿日現在地ニ滞在セントス 依テ馬匹兵器其他ノ整備ヲ右地ニシテ
 (四) 此ノ日午後五時城内ニ在テ又城式アリ 城内外正規兵ノ死屍累々 城壁ノ潰破著ク想ヘバ河北河南山西三省ニ跨ル大行山脉ノ險阻ヲ
 越テ途中營座ニ胞マサレテモ常ニ元氣旺盛雜ヲ行程五千里
 二百里長途ノ遠路ヲ衣服シテ漸ク本日潞安北関ニ到着ス
 我等ハ城等高ク揚揚ナクハ翻亂ハ日章旗ニ極度ノ疲勞モ
 全ク打忘レ潞安ニ占領ノ先常アリ 歡喜ニ陶酔セリ
 五、本日ノ現員正ニ馬數左ノ如シ
 將校一六、卜士官二四、兵一八九、計二二九
 馬數 七三

日々命令

前何時ニテモ三ツノヲ以テテ病院開設ノ急命ニ應ジ得ル如ク
 医校内容ヲ整備シ車輛ノ積載モ分テ適宜変更スル等終日全ク
 ニテ諸般ノ準備ヲ完了セリ
 (一) 部隊日々命令々次ノ如シ (二月二十一日午後十一時三十分於潞安北関)
 (二) 潞安平地ノ敵ハ臨沁方面ニ敗走中ナリ
 師團ハ主力ヲ以テ潞安平地ノ平定ニ任ジ一部ヲ臨沁平地ニ派遣シ
 第一中隊ニ策應セシム
 (三) 本隊ハ明日ヨリ臨沁又隊ニ配屬セラル
 (四) 本隊ハ明日二十日粉谷聯隊長ノ指揮トシテ先ツ店上村ニ泊リ 店上村
 一狀ヲ獲テ 鮑店鎮道ヲテ 鮑店鎮ニ泊リ前道セリトス 依テ午前
 八時三十分馬繋場ニ集會スヘシ
 (四) 行軍順序列左ノ如シ
 第二十隊 信天山隊 第四野砲 第四中隊ノ順序

西明日ノ日並北村准尉遠藤位長鈴木上等兵清野上等兵
三本日ノ現兵五ニ馬数左ノ如シ

将校一六ト士官二四兵一八九計二二九

馬数

七三

火(晴)

一部隊日々命令次ノ如シ第一四(二月二十日午前十一時於隈本西野)

二)本隊ハ臨場支隊ノ後方ヲ砲后鎮ニ向ヒ前進セントス

三)行軍序列左ノ如シ

輜重本部馬廠輜重第一中隊第二野病(上)第三中隊

第三中隊第四野病ノ順序

六)今本日信米地周下ノ指揮スル臨汾支隊ニ配属セシ元氣發射

外午前十一時洛安西兩山ニ發射スル元氣發射ヲ臨汾目標ニテ前進

二月二十二日
朱家左
山西省長
子孫

余ニシテ午後六時朱家庄ニ到着合地ニ宿營セリ

三、今日輜重聯隊本部ハ隣村北常ニアリ、

日々命令
四、部隊日々命令左ノ如シ第三四(二月二十二日午後五時五分於忠澤村)

(一) 敵状ニ関シテ新報ヲ得ズ

(二) 臨汾支隊ハ本夜東里鮑店談及朱家庄ニ宿營ス

日々命令
五、部隊日々命令左ノ如シ第三四(三月二十日午後九時五分於朱家庄)

(一) 本隊ハ本夜朱家庄ニ宿營ス

(二) 槍響ハ行李糧秣ニ依ル

(三) 警急集合ニ際シテ本部前ニ集合日直士官ノ指揮ヲ受

クベシ、警急集合ノ場合ハ銃ヲ連發スベシ

(四) 敵情ニ関シテ依然得ル處ナシ

(五) 臨汾支隊ハ明二十三日辺寨村ニ向ヒ前進ス

(六) 本隊ハ明二十三日黒家口ニ向ヒ前進セシトス、依テ午前九時

馬繁場ニ集合スベシ

七、行軍序列左ノ如シ

本部、馬廠、第三中隊、第二野病(工)第三中隊、第一中隊、第四野病、第四中隊ノ順序

ハ、被管者ハ午前十一時三十分迄物谷聯隊本部ニ至リ太田ケ尉指
示ヲ受ク

九、明日ノ日直、工藤准尉、川村(元)伍長、高嶺上等兵、高橋上等兵
六、本日ノ現員五馬数左ノ如シ

將校一六、卜士官二四、兵一八八、計二二八
馬数 七三

(本日隘安土谷ニ當リ輜重特務兵石井菊松路安第一野戰
病院ニ入院ス)

吳 寨
山田七留縣
(地圖長子縣)

一、午前九時朱家左土奈北常ニ於テ輜重第一中隊ニ隨行馳走
鎮ヲ過ギ四午東里村ニ到着合地ニ於テ大休止盡食ヲ喫ス、
途ハ之ヨリ濁漳河ノ交流嵐水ニ沿ヒテ燒ヒタリ

行軍ノ里余ニシテ豊條鎮ニ至リ合地ニ於テ再び休憩一時間米
路ハ次第ニ悪化シ路上石アリ急坂アリ、車輪愈々難行小豊條ニ
於テ日既ニ没シ夜暗ノ難行ヲ脱ケ午後九時大灰河ニ到リ合地
ニ於テ大休止二時間夕食ヲナス

此ノ日黒家口ニ向フ予定ナリシモ前進部隊ハ難路ニ面セル
モノ如ク後進ノ諸部隊進トシ進ミ得ズ午後十一時半斷ッ
ニシテ黒家口到着合地ニ於テ露宿セリ

日々命令

二、部隊日々命令次ノ如シ(二月三日午後十一時三十分於黒家口)

(一)黒家口西方ニ崖崩レアリ、依テ野戰布鹿重砲以後ノ諸部
隊ハ馬家口以東ニ宿營ス

(一) 粕谷肝隊本部八里家口ニアリ
 (二) 本隊ハ本夜第二野病(一)ニ輜重第二中隊第四中隊ト共ニ吳寨ニ宿營セントス
 (三) 檢養ハ行李糧秣ニ依ル
 (四) 本隊ハ主トシテ宿營地南方ノ警備ヲ担任スヘシ
 (五) 警急ニ際シテハ本部前ニ集合シ日直士官ノ指揮ヲ受クヘシ
 (六) 本隊ハ明廿四午前十時迄ニ出發準備ヲ完了シ後命ヲ待トシ
 (七) 明日ノ日直池田見習士官伊波(一)位長佐木上等兵野尻上等兵
 三、本日ノ現員並ニ馬数左ノ如シ
 付校一六卜士官二四 兵一八八 計二二八
 馬数 七三

二月二十三日

木(晴)

(一) 臨汾支隊ハ速ニ臨汾平地ニ推進スル目的ヲ以テ本二十四日早朝
 宿營地ヲ出發スル也
 (二) 本隊ハ本日前方部隊ノ通過ヲ待テ難路ヲ突破シ臨汾支隊ヲ
 進及セントス依テ午前十一時三十分ニ出發準備ヲ完了シ馬場
 二重ト合スヘシ
 (三) 行軍順序列左ノ如シ
 本部馬廠、第二中隊、第二野病(一)三、第一中隊、第三中隊、
 第四中隊ノ順序
 (四) 太田主計ハ本日午前八時迄ニ所要車輛ヲ里家口ニ集ルヘシ高橋
 主計大尉ノ指示ヲ受テ糧秣ノ補充ヲナスヘシ
 (五) 正午吳寨ニ發、嵐水之沿テ礮道ヲ雜行スルコト約一里午後二
 時今河畔タル里家口ニ到着ス
 此日先進部隊名野戰重砲等ハ山口上軍塞乃大雜隊ニ

陸軍一連二退進軍途ノ途ヲ諸隊亦其ノ山麓ニ据テ傍觀
順存ノ至ルヲ待ツル

本日通過ノ見込ナキ東隊ハ柏谷野隊ト共ニ黒家口ニ而落營スル
トナレリ

日々命令

三部部日々命令第二面(二月二十四日午後八時於黒家口
神谷部隊本部)

(一)敵状ニ関シテハ新報ヲ得ズ

(二)支隊ハ陸沙平地ニ白ヒ前進中ナリ

(三)東隊ハ本夜黒家口ニ而落營ス

(四)餘營ハ行李糧秣ニヨリ

(五)東隊ハ明朝萬禮ヲ梓シテ雜路ヲ突破シ第五村ニ前進シ

支隊ニ進求セントス依テ午前十時馬繁場ニ集會スヘシ

六行軍序列左ノ如シ

東部馬隊 第三中隊 第一中隊 第二野高 (工三) 第四中隊

支隊 支隊 支隊 支隊 支隊 支隊 支隊 支隊 支隊 支隊

園部上等兵

四本日ノ現員正馬數左ノ如シ

侍校一六、卜士官二四、兵一八、計二八

馬數

七三

金(晴)

二月二十五日
黒家口備生

一、本日ヨリ右田中佐ノ指揮スル後方輜重ニ入ル物谷野隊ノ先方ハ
早朝ヨリ雜采通過ニ努カスルモ一個中隊ノ通過モ容易ナラス
最後尾名本隊ハ何時通過シ得ヘトモ覚エズ、茲ニ再び黒家口
ニ宿營シテ人馬ノ休養ニ努メ、兵氣ヲ養ヒ爾後ノ雜行ニ備ヘタリ
此ノ夜輜重第三中隊亦通過スル迄立タズ、現地ヨリ引返シ来リ
本隊ト共ニ全村ニ露宿セリ

日々命令
六部隊日々命令次ノ如シ(二月二十五日午後八時於黒家口)
神谷部隊本部

0861

日々命令

(一) 本隊ハ今夜再ビ黒家口ニ露宿ス

(二) 給養ハ行李ヲ糶練スヨル

(三) 本隊ハ主トシテ東方及南方ニ警戒ヲ担任スヘシ

(四) 本隊ハ明二十六日宿營地ニ先遣隊ニ遣及セトス

依テ午前九時迄ニ準備ヲ完了シ後命令ヲ待ツ

(五) 明日ノ日屯、大谷見切、野村、長林、後上等、加後二等

三部隊日々命令左ノ如シ(二) 日屯、野村、長林、後上等、加後二等

(一) 先遣隊ハ昨夜芳井村ニ宿營シ本日西進セリ

(二) 先遣隊ハ物谷聯隊長ノ指揮ニ依リ今夜長島鎮ニ台ヒ前

進ス

(三) 本隊ハ吉田中佐ノ指揮ヲ以テ拂曉前面ノ難路ヲ突破シ

芳井村ニ台ヒ前進セントス依テ午前九時迄ニ準備ヲ

完了シ後命令ヲ待ツ

芳井村ニ台ヒ前進

二月二十六日
芳井村
(安曇縣)

五、雅路通過之際歩兵一ヶ小隊之ヲ援護ス

四、本日ノ現員並ニ馬数左ノ如シ

將校 一六、卜士及二四、兵一八、計二三八

馬数

七三

土、(晴)

一、恙ナク雅路ヲ踏破セシガ為ニ昨日未或ハ此地ヲ偵察ト或ハ之ニ對スル諸準備ヲ整へスル等通過順番ヲ待機中ノ兵隊ハ午

前上時里家ニ去祭ニ午雅路ノ山麓ニテ大休止、晝食午後一時

輜重ニテ中隊ノ後方ヲ擔任シテ車輛ハ愈々險峻ヲ攀リセリ

此ノ間各將校ハ兵ヲ督勵シ衛生兵ハ車輛ヲ應援シ輜重待勢

兵又倦ヲトリテ馬ヲ勵マズ等流汗淋漓呼吸促進ヲ物トモセズ只

備ニ人馬車輛ノ安全ヲ祈リ、老援助カスル其ノ真劍サハ蓋シ

特筆に値スルモノアリキ

斯クニテ蛇行峽ニタル一軒ニ至ル急坂ニ僅クニ時間ニシテ是ヲ
踏破スルニトヲ得タリ

之ヨリト山一息辺塞村ヲ過キテ良馬鎮ニテ薄暮途ニ再ビ山間
急坂ニ入り小官道半坡白土室及紅玉^室等ノ諸山嶺ヲ暗夜
塵ノ中蹊ニトシテ行進午後十時三十分高度ノ急坂ヲ降り岩
村ニ至リテ宿ス

日々命令

二部隊日々命令次ノ如シ(二月二十六日午後五十分於岩井村)
神谷部隊東部

(一) 支隊ノ主力ハ二十五日夜朱家寨水落村田ニ宿營セリ

(二) 先遣騎重ハ本朝七時岩井村ヲ通過而進セリ

(三) 東隊ハ昨夜右方輜重ト共ニ岩井村ニ宿營ス

(四) 休養者ハ行李糧秣ニヨル

(五) 散置兵ニ際シテハ本部前ニ集合スヘシ

西軍急ニ際シテハ本部前ニ集合スヘシ

スベシ

(七) 行軍序列左ノ如シ

輕重第三中隊 歩兵小隊 第四野砲順序

ハ明日ノ日赴 比治川九智士官川村(伊)伍長 兼生上等兵

鈴木一等兵

三本日ノ現員並ニ馬數左ノ如シ

將校一六下士官二四 兵一八八 計二三八

馬數(支那馬)一頭斃死)

七二

日(晴)

二月二十七日

古縣 鎮

古西者安次乃
地國安次縣

一威縣ノ木耳寨ニ比スベキ荒廢ノ坊井村ニ夜ヲ明カセル我隊ハ
午前七時半今地ニ發大上下スル急坂ヲ崩水ノ溪谷ニ沿フテ前
進午前十一時舊河ノ支流タル心河ヲ渡リ府城鎮ヲ至テ午後一時割

設営者等
敵襲ヲ受テ

日 日 命令

審ニ到着今地ニ於テ大休止盡食ヲナス途ハ之ヨリ再び山路急坂ニ
入り車輛頗ル難行ヲ覺ケ午後五時未多雲ニ到着セリ。

然ルニ本隊ノ設営者ハ午後四時頃今地ヲ去ル約一里西方ニ古縣鎮
ノ入口ニテ敵龍衣ヲ受ケントノ警報ニ接シ一同頗ル緊張ス。

茲ニ掩護歩兵ヲ先頭ニ古縣鎮ノ敵ヲ掃蕩シ午後七時半
今地ニ到着極メテ嚴重ナル警戒ニ武装ノ儘一夜ヲ明カセリ。

二部隊日々命令今夕ノ如シ(二月二十七日午後九時三十分)
神谷部 隊本部

(一) 臨汾平地ニ於テ敵伏兵ニ交隊ノ状況ニ就テ新報ヲ得ス

(二) 先遣輜重ハ一日行程前方ニ西進セリ。

(三) 本隊ハ本夜古縣鎮ニ露營ス。

(四) 給養ハ携帶口糧甲ニ依ルヘシ。

(五) 警急ニ際シテハ本部前ニ集合シ日主士官ノ指揮ヲ受ケル

(六) 本隊ハ特ニ古縣地ノ西方及南方ヲ警戒スヘシ

以行軍序列ハ本日ニ合シ

凡明日ノ日晝、高松久見習士官木村伍長佐後(辨)上等兵

奈良崎一等兵

三、本日ノ現算正ニ馬數左ノ如シ

將校一六、下士官二四、兵一八、計二二八

馬數

七二

二月二十八日

西張村

出省河内縣

飛田陸少將

月(晴)

一、午前四時突如トシテ宿舎前ニ銃丸飛來シ耳ヲ劈ク銃声ニ

敵態アルヲ知り茲ニ部隊長ハ在日在將校ヲ隨ハ歩哨隊ヲ遣

魂ニ敵狀ヲ偵察シ在ニ本部前ニ警急集合ノ全員緊張張勇

躍直ニ戰備ヲ整ヘ一方肝隊本部ト連絡シ後命ヲ待テリ

然ルニ其ノ後敵ハ我軍ノ機敏ナル攻撃態ニ山間ニ退却セルモノ

日々命令

如ク何時ニカ銃聲熄ミタルニ尚怒ヲ戒メテ緊張程ニ黎明ヲ待テリ

午前七時三十分本隊ハ歩兵ノ嚴重ナル掩護ノトニ古縣鎮ニ去發セシ

カ去發後ニ大岳山脉最後ノ雜木タル險路名坂ニ直ニ車輻ハ忽チ大

雜木行ヲ来ヒリ斯クテ黃塵ト口喝ニ悩マレシニ西進スルニ約五里ニテ古

蓮村ニ到着シ全地ニ柱ヲ大休止盡食午後二時更ニ前進路ハ之ヨリ次第

ニ垣々タルト坂トナリ上寨ヲ過ル頃ヨリ一陣ノトニ臨沔平原ヲ收ルニトシ

得タリ 斯クテ曲阜鎮ニ柱ヲ赤陽没セリ此白臨沔ノ東側地也凡

九州堡ニ向ヒ陸行軍ノ予定ナリトモ夜行軍僅ニ二里命ニヨリ西辰

村ニ到リ全地ニ宿營セリ時ニ午後八時三十分ナリ

二部隊日々命令次如シ(二月二十八日午後十一時三十分於西辰村)
(神谷部隊本部)

(一) 支隊ハ本日臨沔城ヲ占領セリ

(二) 第三十師團左隊ハ曲阜鎮附近ニ遠セリ

(三) 神谷部隊本部ハ九州堡ニアリ

神谷部隊本部ハ九州堡ニアリ

(六) 警急ニ際シテ本部前ニ集合シ日士官ノ指揮ヲ受ス
(七) 本隊ハ明三且日九州堡ニ向ヒ前進セントス

依テ午前七時十五分ニ發準備ヲ完了シ馬繁場ニ集合スヘシ
ハ行軍序列本日ニ令シ

九 明日ノ日盛 高松見習士官 吉田(政)伍長 渡辺上等兵 岸上等兵
三 本日ノ現員至ニ馬数左ノ如シ

馬 將校一六 卜士官二四 兵一八 計 二二八
七二

0869